



ネットワーク構築と国際交流協会の役割 「都内リレー専門家相談会」の事例から

今月は、外国人向けの都内リレー専門家相談会(当協会先導的施策支援事業助成対象)の事例紹介と併せて、国際交流協会・地域国際化協会の役割を考察する。

東京国際交流団体連絡会議相談事業部会代表・
武蔵野市国際交流協会プログラムコーディネーター
杉澤 経子



東京の現状

東京都の外国人登録者は、二〇〇三年一月一日現在、一七〇カ国、三四万四二二一人。人口のほぼ二%に迫る勢いだ。また都区内における国際結婚は一〇組に一組(厚生労働省人口動態統計)に上っている。地域には

越えており、ましてや外国人の場合は同言語のネットワークで情報が流れるため、行政での縦割りの対応では機能しない。特に、日本語が不自由な外国人にとっては母語で対応してくれる相談窓口が重要で、今のままでは外国人の問題は潜在化する一方だ。



行政枠を超えた ネットワークの構築

さまざまな相談が寄せられる。しかし、各市には法律相談などの窓口は設けられていないが、外国人特有の問題である在留資格や結婚・離婚、労働問題、異文化ストレスからくる心の問題などに対応できる場所はほとんどなく、辛うじて日本人向けの相談窓口に通訳をおいて対応している程度である。しかも言語は英語、中国語、ハンガールがせいぜいで、一七〇カ国に及ぶ外国人住民に対する相談体制にはほど遠いのが現状だ。最近では、外国語のできるボランティアが所属する国際交流協会に行政から外国人相談業務が委託されるケースも出てくるようになった。

このような問題意識のもと、武蔵野市国際交流協会では、一九九七年から外国人問題に詳しい弁護士や医師などの専門家と通訳ボランティアがタイアップして、どんな相談にも母語で対応できる体制づくりを目指すべく、年一回のペースで「外国人無料総合相談会」を開催してきた。年々相談者は増加するとともに、問題は多様化、複雑化、そして潜在化してきている。さらに、遠方から来る相談者も多く、外国人は行政区域に関係なく相談できることを求めていることを実感させられる。外国人も住民である。ほかの機関に回せばよいという問題ではなく、また武蔵野だけがすべてを引き受けられるわけでもない。行政区域を越えた制度としての体制づくりが必要ではないかと考え、東京国際交流

財団(現在の東京国際交流委員会)に相談を持ちかけたところ、二〇〇〇年度の事業の中に協会職員の意見交換の場として外国人相談事業担当者懇談会を設けてくれた。

限られた財源でどのように外国人相談を事業化したらいいのか、協会の職員は悩んでいた。行政における外国人相談事業の問題点、ボランティアが参加する際のメリットやデメリット、新たな事業のあり方などの議論を経て、ネットワーク型での相談事業に取り組もうということになり、二〇〇一年には具体的な事業実施に向けて新たに「外国人相談事業部会」が設置された。

これは、都内二〇の区市の国際交流協会が中心となり、弁護士会や多文化間精神医学会などの専門団体やNPOなど一〇団体、行政本体が二カ所加わり、合計三二団体で構成されるネットワーク組織である。国際交流協会や行政は場所の確保や広報、専門団

また、東京のような都市型の地域においては、住民の生活圏は自治体の行政区域を



↑相談会当日スタッフミーティング



↑相談会の様子

参加しており、その意識の高さには目を見張るばかりだ。また、自らの滞日経験を基に多くの在住外国人が通訳ボランティアとして参加しているのも特徴で、二一言語に対応できる体制以上に、市民としての心のこもった活動になっている。

地域のセーフティネットを 目指して「国際交流協会の役割

武蔵野市の近隣に位置する刑務所の職員から、ある時通訳の派遣依頼があった。外国人受刑者を日本で最も多く収容しており、

多言語対応に苦慮しているという。その折にこんな話を聞いた。「日本語も上手でしかも会って話を聞いてみると実に好青年といった人が、我慢に我慢を重ねたうえで犯罪に至ってしまうというケースが増えているんです」。

そんな状況になる前に、外国人が気軽に相談できる場が身近にあったら状況は変わっていたかもしれない。外国人相談ネットワークの構築は、犯罪に象徴されるような外国人であるがために起こり得る不幸な出来事を未然に食い止める「地域のセーフティネット」になり得るのではないだろうか。

このようなネットワーク構築においては、各地域に密着した情報を把握できる国際交流協会の職員こそが、地域の人材や団体を的確につなげられる立場にいる。さらに、東京国際交流委員会がそうであるように、基礎自治体の国際交流協会同士または行政同

体は専門家の派遣、NPOは当日の運営、東京国際交流委員会が事務局を務めるといったように各団体が得意な分野で役割を担い合い、「協働」での事業づくりを目指している。通訳ボランティアのための研修会に続いて、二〇〇二年度には自治体国際化協会の先導的施策事業として財政支援を受けられたことをきっかけに、在住外国人のための「都内リレー専門家相談会」をスタートさせた。全一〇カ所で開催したが、どの会場も盛況で、結果、二二五名の相談者が訪れ、全二〇言語の通訳が出勤し、専門家対応は一五分野に及んだ。

対相談者でいえば多分野にわたり多言語で対応できるのが「都内リレー専門家相談会」の特徴といえる。一方、日本人市民から見れば、地域に暮らす外国人の問題を市民として共有できる場であるため、多くの市民がかかわって「協働」していることに大きな意義がある。通訳ボランティアは、通常は各国際交流協会に所属し活動をしているが、「都内リレー専門家相談会」では多言語対応ができるよう、団体や行政枠を超えて積極的に

士をつなげられる位置にいるのが、地域国際化協会ではないだろうか。ネットワーク構築における各国際交流協会の役割は大きい。地域によって、外国人居住者や市民ボランティア、そして専門家の有り様はそれぞれ異なっているかもしれない。ネットワーク化に向けて行政の壁は厚く、課題も山積している。しかし、今後、各地で外国人の定住化が進むことは明らかだ。外国人にとって安心して暮らせる街であることが多文化共生社会実現の第一歩であるならば、地域の国際交流協会の果たすべき役割はますます大きいといえる。

2003年度 都内リレー専門家相談会日程

No.	開催日	場所	主催
1	6月28日(土)	武蔵野スイング	武蔵野市国際交流協会
2	7月6日(日)	Lソフィア	足立区民交流協会
3	9月28日(日)	シビックセンター	文京区国際協会
4	10月16日(木)	東京国際フォーラム	関東弁護士会連合会
5	11月9日(日)	中野区商工会館	中野区国際交流協会
6	11月22日(土)	杉並区役所	杉並区文化・交流協会
7	11月29日(土)	大田区役所	OCNet
8	12月6日(土)	文化会館たづくり	調布市国際交流協会
9	1月18日(日)	町屋文化センター	荒川区国際交流協会
10	04年1月31日(土)	町田市民フォーラム	町田国際協会
11	04年2月14日(土)	クリエイトホール	八王子市
12	04年2月28日(土)	女性総合センターアイム	立川市